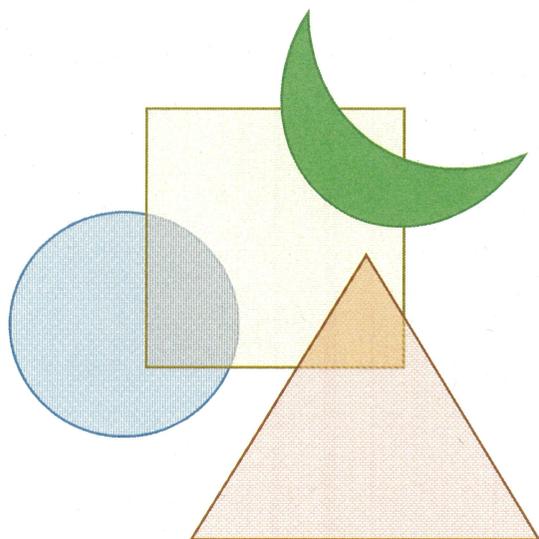


# 令和2年度第12回高知市総合教育会議

## 学力向上対策

### 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた学力向上の取組



高知市教育委員会  
学校教育課  
学力向上推進室

臨時休業期間中における学力保障のための支援

- ◆臨時休業期間中における児童生徒の家庭での学習支援動画を作成し、市教委HPに動画サイト「高知市☆わくわく☆学び箱」を開設・掲示
- ◆教員の教材研究への支援として、指導案や教材、板書例などの授業づくりの成果物をデータ化して提供
- ◆家庭学習のための教材と、自立的な学習のための「学習計画表」の事例の提供
- ◆学校からの要請に応じた学力向上推進室による支援訪問の継続実施
- ◆臨時休業期間中の補習学習等の実施

「学びの保障」のための授業時数確保等への対応

- ◆行事の精選  
(時期の変更, 内容の工夫や規模の縮小, 中止等)
- ◆1学期中間テストの取り止め
- ◆学期末懇談を長期休業期間中に実施
- ◆週当たりの授業時間数の変更  
(例) ・週29時間→週30時間 ・7時間目の設定
- ◆長期休業期間中の計画的な家庭学習や補習の実施
- ◆長期休業期間中の授業日の設定

◆高知市立学校の臨時休業期間中の補習学習等への参加児童生徒の状況

学校種別	5月11日～15日		5月18日～22日	
	参加総数	割合	参加総数	割合
小学校 義務教育学校(前期)	9089人	61.8%	9753人	66.3%
中学校 義務教育学校(後期)	3783人	65.3%	3711人	64.0%

※小学校・義務教育学校(前期)の「5月11日～15日」は「児童の居場所」を含む  
※「5月11日～15日」は午前中のみ

◆令和2年度 夏季休業(7月21日～8月31日)における授業実施日

- ・小学校 7月21日～31日, 8月24日～31日(計13日)
- ・中学校 7月27日～31日, 8月20日～31日(計13日)
- ・義務教育学校 7月21日～31日, 8月20日～31日(計15日)

◆加えて授業日を設定している学校

- 中学校(5校)
- +2日 … 1校【7月21・22日】
  - +2日 … 2校【8月18・19日】
  - +3日 … 2校【8月17・18・19日】

# 令和2年度事業計画の見直し

**知**

の分野の目標

**<年度当初の測定指標>**

- 全国学力・学習状況調査  
全国平均100に対して  
小学校105 中学校100
- 高知県学力定着状況調査  
全国値100に対して  
小学校105 中学校100

《H31(R1)年度の学力調査の高知市結果 全国平均比》

- 高知市到達度把握調査  
小学校 4年国語93・算数100, 5年国語95・算数96  
中学校 1年国語92・数学92, 2年国語94・数学84
- 高知県学力定着状況調査  
小学校 4年国語101・算数107, 5年国語102・算数110  
中学校 1年国語96・数学89, 2年国語95・数学85
- 全国学力・学習状況調査  
小学校6年国語96・算数101 中学校3年国語91・数学86

新型コロナウイルス感染症の影響により  
全国学力・学習状況調査、高知市到達度把握調査が中止

**新たな指標**  
<R2年度の取組の測定指標>  
高知県学力定着状況調査  
全国値100に対して 小学校105 中学校100

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>当初の計画</b>	学校経営計画に基づく学校訪問(各学校年間4回)【学力向上推進員】											
	小学校高知市指定校への訪問(各学校の計画による)【指導主事・学力向上推進員】											
	中学校教科会への訪問(2週に1回程度)※授業改善プラン訪問(5教科各2回)を含む【指導主事】											
	県指定校(主体深, 授業づくり講座)への訪問(各学校の計画による)【指導主事・学力向上推進員】											
<b>学校の年間予定</b>	4月 全国学力・学習状況調査 高知市到達度把握調査	中止			夏季休業 7.21~8.31					冬季休業 12.26~1.7		
	変更 臨時休業 4.13~5.24 (授業日: -26日)	授業再開 5月25日			夏季休業 (授業日: +13日)				12月 高知県学力定着状況調査			
前年度某の臨時休業 3.6~3.24												
<b>計画の見直し</b>	学校経営計画に基づく学校訪問(各学校年間4回)【学力向上推進員】 ※1回目の訪問は任意に変更											
	小学校高知市指定校への訪問(各学校の計画による)【指導主事・学力向上推進員】 ※4・5月の訪問計画変更											
	中学校教科会への訪問(2週に1回程度)※授業改善プラン訪問(5教科各1回)を含む【指導主事】 ※2回→1回に変更											
	県指定校(主体深, 授業づくり講座)への訪問(各学校の計画による)【指導主事・学力向上推進員】 ※1学期の研究会中止											
	臨時休業期間	家庭学習動画作成(高知市HPに掲載), 家庭学習教材の提供, 学習計画表の事例提示 等										

【共通】

1

学校経営計画に基づく訪問

- ★組織的な学校運営に対する指導・助言
  - ・ 全小・中・義務教育学校
- ◇学力向上推進員：年4回訪問

学校組織としての  
目標の共有

計画的な若年教員の  
育成

2

初任者指導訪問

- ★初任者の育成及び学校におけるOJTの支援等のための訪問指導  
(具体的な改善点、学級づくりへの助言 等)
- ・ 初任者配置校
- ◇学力向上推進員：年5回訪問

【中・義務教育学校後期】

4

中学校組織力向上のための  
実践研究事業

- ★教科会の充実、授業力向上に向けての計画的、定期的な訪問指導  
【「タテ持ち」型】
  - ・ 拠点校：城西中・介良中・旭中
  - ・ 推進校：城北中・愛宕中・城東中・潮江中・一宮中・青柳中・朝倉中・三里中・南海中・西部中・大津中・横浜中・春野中
- ◇学力向上推進員・指導主事による訪問：月複数回×5教科×16校
- ★教科の枠を越えたチーム会の活性化  
【「教科間連携」型】
  - ・ 鏡中・行川学園・土佐山学舎

5

授業改善プランに基づく学校訪問  
(国・社・数・理・英)

- ★学力調査等で明らかとなった課題解決、資質・能力の育成を目指した授業づくりへの訪問指導
  - ・ 中・義務教育学校
- ◇指導主事等：年間2回×5教科×19校



校長会との連携

学力向上に向けての勉強会の実施

学校との連携

学校の課題解決に向けた要請訪問の実施

教育研究所との連携

年次研修等における連携

「主体的・対話的で深い学び」の  
授業づくりの実現に向けて

みんなで学ぶ  
みんなで高まる  
子供の未来のために



【小・義務教育学校前期】

6

高知の授業の未来を創る推進プロジェクト  
「主体的・対話的で深い学び」を実現する  
ための実践研究事業

- ★9年間の学びをつなげる授業づくり、教科横断的な授業づくりへの指導・助言
  - ・ 潮江東小
- ◇学力向上推進員・指導主事等による訪問指導



3

学力向上のための  
授業改善研究指定校

- ★組織的な授業研究に向けた学校体制づくりについての指導・助言
- ★主体的・対話的で深い学びの授業づくりの実現に向けた授業改善等訪問指導
  - ・ 江陽小・初月小・長浜小・五台山小・行川学園・神田小・一宮東小・横浜新町小・鏡小・春野西小
- ◇学力向上推進員・指導主事による訪問指導

6

高知の授業の未来を創る推進プロジェクト  
「授業づくり講座」

- ★授業力向上を研究する学校を対象に教材研究や授業研究の推進に向けての指導・助言
  - ・ 算数・数学拠点校：潮江南小・大津中
  - ・ 国語拠点校：秦小・青柳中
  - ・ 英語拠点校：第四小・城北中
  - ・ 道徳拠点校：一宮中
  - ・ 複式拠点校：久重小
  - ・ 社会拠点校：昭和小
  - ・ 理科拠点校：高須小
- ◇学力向上総括専門官・講師・指導主事等による訪問指導



校内研究の充実に向けて



- 【校内研究の事前の訪問では】
  - ・ 教材分析や指導案づくり
  - ・ 事前授業や模擬授業 等
- 【校内研究当日の訪問では】
  - ・ 提案授業に対する協議・講話

課題解決に  
向けた  
資料の提供



各シート等の活用

- ★NEW国語、算数・数学、英語評価問題
- ★パワーアップシート、パワーアップシートα
- ★単元テスト ★県作成各シート 等

各資料等の活用

- ★「学びの羅針盤」
- ★「算数・数学指導実践集」
- ★NEW「国語科学習指導案集」
- ★「学校図書館を活用した『読み』を鍛える拠点校事業学習指導案集」
- ★「授業アイデア事例集」
- ★「学級経営ハンドブック」



## 「学びの保障」のための授業時数確保等について（一覧表）

高知市教育委員会学校教育課 令和2年8月6日調査

質問	現状と今後の見通し	授業時数創出の方法								その他の工夫 (記載については、要約している)	
		教育課程の実施状況			行事の精選等 取組期間短縮(実施なし含む)				授業時数 確保の工夫		
		遅れを取り戻した	遅れを修正しているが年度内	遅れを修正できない年度内に修正	運動会 / 体育祭	音楽会 / 文化祭	修学旅行	集団宿泊活動	8月に期末面談を		週授業設定以上の
1	第四小	○			○	○					行事等は極力、精選して実施し、授業の事前準備や事後指導を充実させた。
2	第六小		○		○	○			○		
3	江ノ口小		○		○	○					カリキュラム・マネジメントの徹底と教育効果をいかに上げるかを考えさせた。
4	江陽小		○		○	○		○			カリキュラム・マネジメントによる教育計画の見直し。行事・会議の精選。
5	旭小		○		○	○		○			
6	旭東小	○			○	○	○	○			
7	潮江小		○		○	○					学期末懇談会や終業式実施日の校時を変更し、授業時数を確保した。
8	潮江東小		○		○	○	○	○			
9	小高坂小		○		○	○	○	○	○		モジュール形式による授業時数の確保。
10	昭和小		○		○	○		○			懇談の時間等を授業にあてた。
11	秦小		○		○	○					水曜に6時間授業を設定。総合的な学習の時間を他教科の時間にあてる。
12	初月小		○		○	○					期末懇談や終業式の日に従来よりも授業時間を確保した。
13	横浜小		○		○	○	○	○			
14	長浜小		○		○	○	○	○			
15	浦戸小		○		○	○		○	○		
16	三里小		○		○	○	○				放課後に希望する家庭と懇談会の実施。家庭訪問などの欠時の削減。
17	五台山小	○			○	○		○			
18	高須小		○		○	○	○		○		
19	布師田小		○		○	○					行事の日程変更(運動会を5月から11月へ)と内容の削減。
20	一宮小		○		○	○		○	○		授業時数の確保と詰め込みにならないように教職員へ意識させる。
21	久重小		○		○	○	○		○		
22	朝倉小		○		○	○	○	○			
23	鴨田小		○		○	○	○	○			
24	一ツ橋小		○		○			○			個人懇談期間や校内授業研等の校時の工夫。
25	介良小		○		○	○		○			全校研(研究授業)の時、授業公開クラス以外も自習を行う。
26	大津小		○			○	○	○			授業改善(カリキュラムマネジメント)
27	朝倉第二小	○			○	○	○	○			参加日や行事は規模縮小。できる範囲で形を変えて実施。
28	潮江南小		○		○	○					行事の見直しと欠時の削減による授業時数の確保。
29	神田小		○		○	○		○			運動会、音楽会の中止。(参観日にクラス単位で成果発表)
30	泉野小		○		○	○		○			
31	一宮東小		○		○	○	○	○			
32	十津小		○		○	○					4～6年生の委員会・クラブの時間を中止し、教科学習の時間にする。
33	横浜新町小		○		○	○	○	○			行事の見直しによる授業時数の確保。
34	介良潮見台小		○		○	○					全校集会活動を教科学習に充て、全校授業研究は中止または短縮。
35	横内小		○		○	○					行事の精選による授業時数の確保。
36	鏡小	○			○	○	○	○			
37	春野東小		○		○	○	○	○			学校行事の実施内容と方法の検討。(運動会・音楽会等)
38	春野西小		○		○	○					全校研(研究授業)の時、授業公開クラス以外も自習を行う。
39	はりまや橋小		○		○						
<b>小学校計</b>		<b>5</b> 【13%】	<b>34</b> 【87%】	<b>0</b>	<b>38</b> 【97%】	<b>36</b> 【92%】	<b>16</b> 【41%】	<b>20</b> 【51%】	<b>12</b> 【31%】	<b>3</b> 【8%】	
40	城北中		○		○	○			○	○	
41	城西中		○		○	○		○	○		単元ごとに教授内容の精選。
42	愛宕中		○		○	○	○	○	○		
43	城東中		○		○	○		○	○	○	中間テストをやめ、単元テストの実施。
44	潮江中		○		○	○					授業や行事の重点化。45分授業などの時間割編成の工夫。
45	一宮中		○		○	○	●		○	○	
46	青柳中		○		○	○			○		期末テストを2日で実施。不定期に7時間授業の実施。
47	朝倉中		○		○	○	○	○	○		終業式の日に授業の実施。
48	三里中		○		○	○				○	
49	南海中		○		○	○	●		○		夏休みの授業日の設定。(3年生のみ、1、2年生より3日増)
50	西部中		○		○	○	○		○		
51	介良中		○		○	○	○				
52	大津中		○		○	○	○	○			
53	旭中		○		○	○	●		○		定期テスト後に授業実施。全校研究授業の中止。職員会の放課後実施。
54	横浜中		○		○	○	○	○	○	○	定期考査を5回から4回へ変更。終業式の日に授業の実施。
55	鏡中		○		○	○	○		○	○	
56	春野中		○		○	○			○		家庭学習の徹底。帯タイムを2学期から実施するように検討中。
57	行川学園		○		○	○	○			○	
58	土佐山学舎		○		○	○	○	○	○	○	行事の内容を精選し、授業時数の確保。
<b>中・義務計</b>		<b>0</b>	<b>19</b> 【100%】	<b>0</b>	<b>18</b> 【95%】	<b>16</b> 【84%】	<b>12</b> 【63%】	<b>8</b> 【42%】	<b>13</b> 【68%】	<b>8</b> 【42%】	

# 別紙

## 高知市立学校の臨時休業期間と学校再開に向けた考え方

### 1 臨時休業期間の再延長

令和2年5月7日（木）から5月10日（日）まで

※5月11日（月）から5月24日（日）まで延長される場合も想定して準備します。

### 2 期間ごとの段階的な登校

期日	時間帯	登校希望者	「児童の居場所」「希望者への給食」申込者
(1) 5月7日 8日	午前 午後	登校日の設定が可 なし	これまでと同様に実施
以下、臨時休業が5月24日まで延長される場合			
(2) 5月11日 ～15日	午前	補習学習等の実施 20人以内を配慮し、教室を分けるなどの対応	
	給食	給食を取らず下校	喫食
	午後	下校または居場所へ移行 児童クラブ	
(3) 5月18日 ～22日	午前	補習学習等の実施 参加人数によらず運営	
	給食	喫食	
	午後	補習学習等または下校または児童クラブ	
(4) 5月25日 以降	5月18日（月）からの状況により決定		

### 3 臨時休業期間のカレンダー

状況が変化して補習学習等を中止する場合は、学校教育課ホームページで発信する。

5/7(木)	5/8(金)	5/9(土)	5/10(日)
← 臨時休業期間 →			
(1) 登校日の設定が可			
5/11(月)	5/12(火)	5/13(水)	5/14(木)
← 臨時休業期間延長 →			
(2) 希望者への補習学習等、午前中のみ、給食なし 補習学習等終了後 「児童の居場所」「希望者への給食」は実施			
5/18(月)	5/19(火)	5/20(水)	5/21(木)
← 臨時休業期間延長 →			
(3) 希望者への補習学習等、給食あり 「児童の居場所」「希望者への給食」は 登校した児童生徒と統合して実施			

(4) 5月25日（月）以降は5月18日（月）からの状況により決定する。

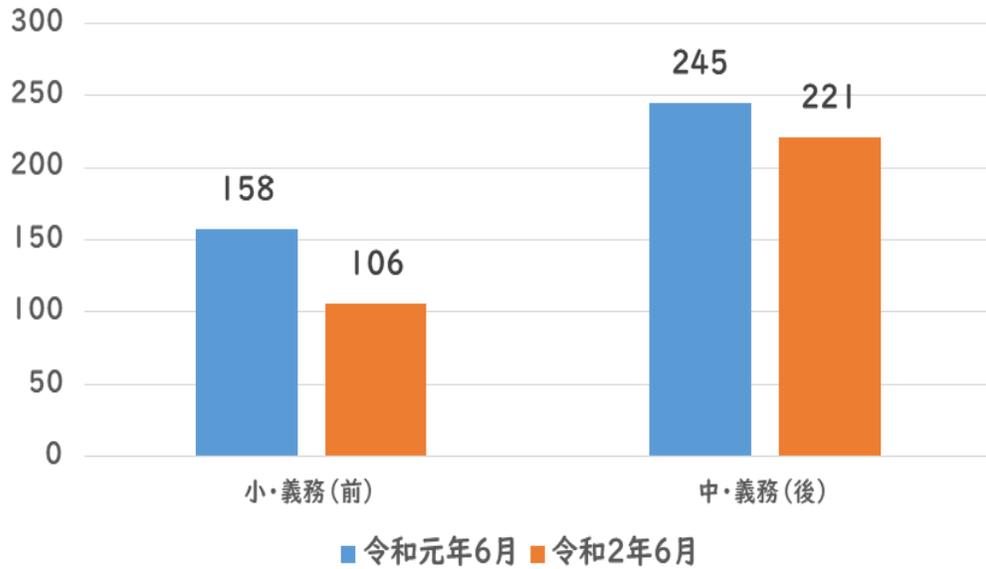
# 「不登校対策」

高知市教育研究所

## 現状 (Research)

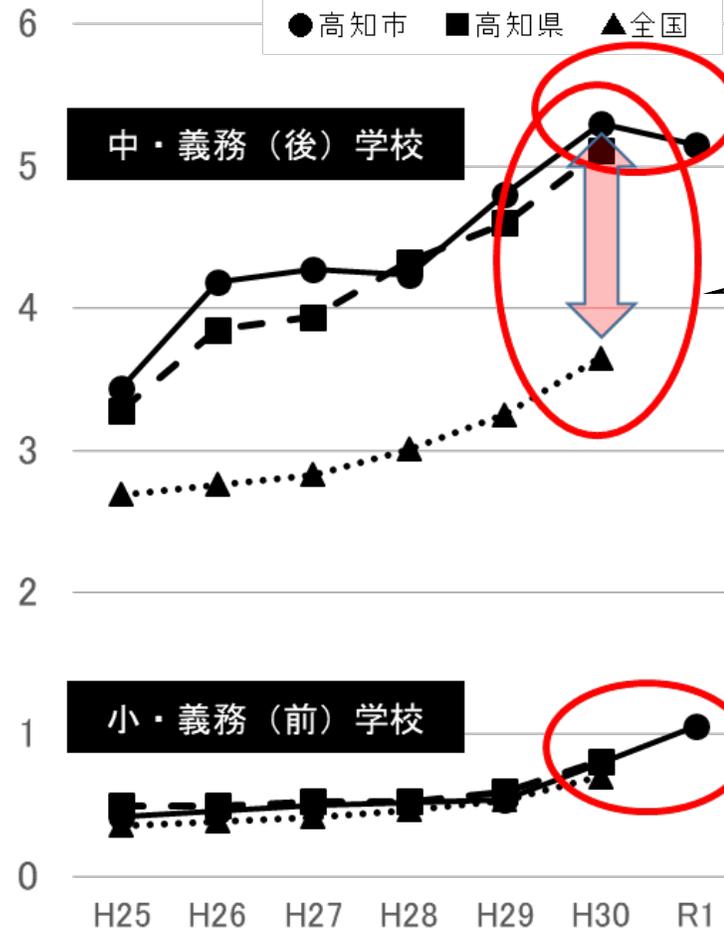
### 学校再開後の長期欠席者(10日以上欠席)の状況

6月(1か月間)に10日以上欠席した児童生徒数



長期の臨時休業明けに懸念されていた欠席者は、昨年の6月に10日以上欠席した児童生徒数よりも、少なかった。

### 不登校を理由とする長期欠席児童生徒の出席率の推移

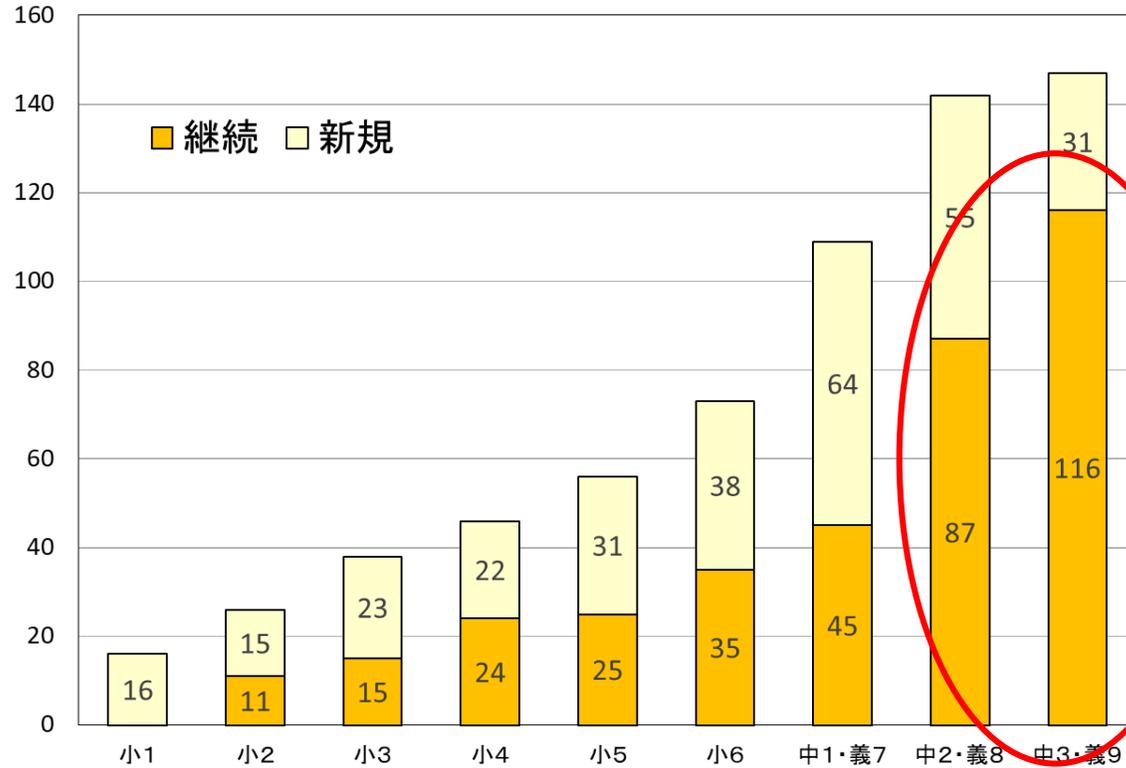


中学校の出席率が減少H30(5.3%)→R1(5.13%)

高知市(5.3%)と全国値(3.65%)の開きが大きい

小学校の出席率が急増H29(0.54%)→R1(1.06%)で1.96倍

学年別長期欠席者数(新規・継続別)  
 ※H29~R1の平均値で算出



30日以上欠席している生徒の70%が継続の状態といえる。

不登校状態の児童生徒を支援する取組

小2(新規58%),小3(同60%),小4(同48%),小5(同55%),小6(同52%,中1・義7(同59%)が新たに30日以上長期欠席している。

新たな不登校を抑制する取組

## 現状から見た成果と課題に基づく取組方針 (Plan)

- 長期休業明けは、学校において児童生徒の「心のケア」を図りながら、教育活動を工夫しながら行ったと考える。
- 高知市では、平成17年度から校内に不登校支援担当者を配置させ、不登校児童生徒の支援を行っている。特に、中学校においては、定期的に不登校支援委員会を設定し、組織的に取り組んでおり、全国値を上回っているが、出現率の減少につながったと考える。
- 小学校においては、学級担任や不登校支援担当者を中心に個別対応してきたが、教員の世代交代等もあり、対応できないケースが増加してきたと考え、小学校における組織的な体制整備が求められている。
- 中学1年（義務教育学校7年）までは、新規者（前年度は30日以上欠席していない児童生徒）が半数程度あるいはそれ以上を占めていることから、登校の安定しない児童生徒に対しての、早期発見・早期対応の取組が求められている。
- 不登校状態の児童生徒に対しては、進路保障を目指した自立に向けた支援の充実が求められている。

### ※ コロナ禍における臨時休業後の、児童生徒の「心のケア」への高知市の取組

新型コロナウイルス感染症により、長期に及んだ臨時休業後の学校再開時に、先生方が子どもの「心のケア」をベースにおいて、教育活動に取り組めることができるよう、次のように、リーフレット「ラポール」を発行し、全ての教職員に配付しました。

第8号（5月7日発行）「新型コロナウイルス感染症と子どもへの対応～子どもと会う時に知っておいてほしいこと～」

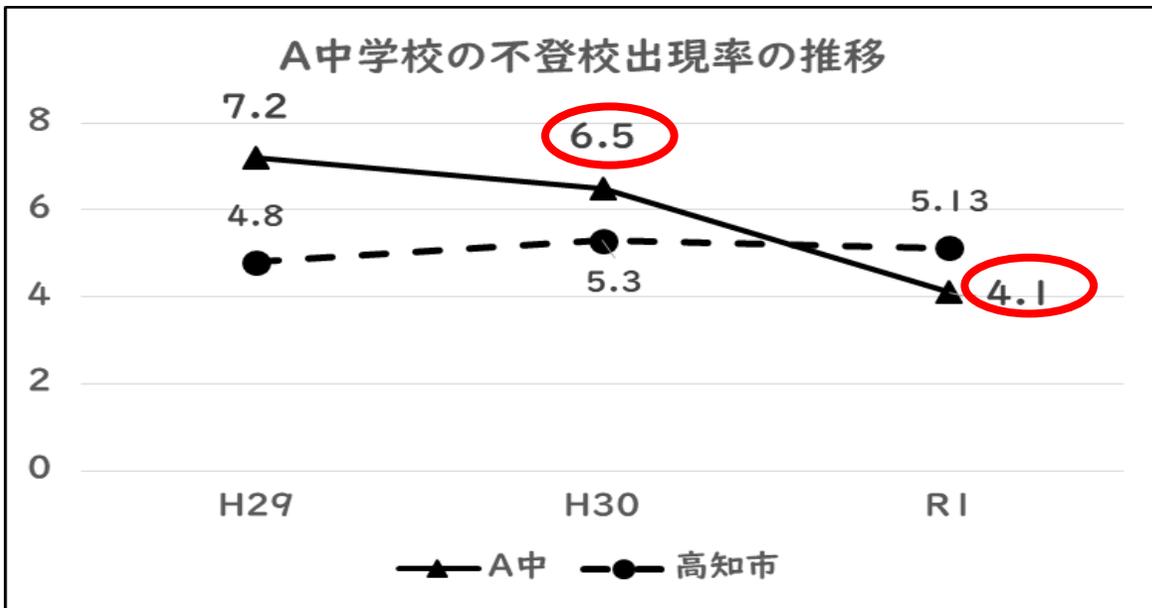
第9号（5月26日発行）「学校再開後 1週間の子どもの対応～担任と子どもをつなぐ黒板の活用～」

第10号（7月3日発行）「キープソーシャルディスタンスの中でもできるエンカウンター」

第11号（7月21日発行）「子どもと保護者 心がつながる学期末懇談～学期末懇談 3つの極意～」

例年、5月から配置している「スクールソーシャルワーカー」を、4月から配置し、臨時休業中も、児童生徒や保護者への支援を行いました。

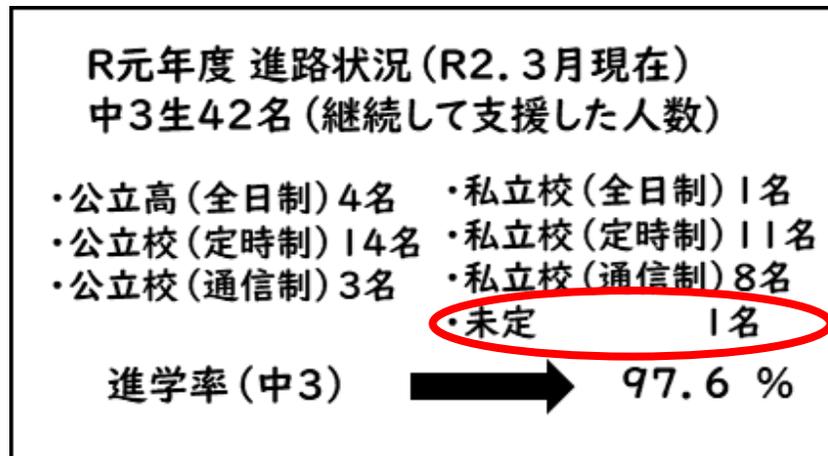
新たな不登校の抑制で成果が表れたA中学校の取組



【要因として考えられる効果的な取組】

- ・ 定期的な不登校支援委員会が行われ、SSW等を含め、参加者全体が、柔らかな雰囲気の中で、シートを活用して、学年を越えて確実に共有する組織的な取組や手立ての検証、決定が行われている。
- ・ エンカウンターを中心とした学級づくりに取り組んでおり、未然防止につながっている。学級が落ち着き、生徒が安心して学校生活を送ることができている。
- ・ 管理職が生徒の情報を詳しく把握することで、マネジメントを行い、組織的な対応につながっている。

◎令和元年度教育支援センターで支援した中学3年生の進路の状況



- ・ 42名中、41名が進学することができた。

【未定者の状況】

- ・ 本生徒は、当初は公立高等学校への進学を希望しており、教育支援センターにおいて支援を行ったが、この春には、受験をすることに至らなかった。
- ・ 現在は、保護者と就労に向けて準備している。

# 令和2年度 高知市の不登校対策の取組(Do)

対象

全ての児童生徒

登校が安定しない児童生徒

不登校状態の児童生徒

対策のポイント

## ○各学校での魅力ある(不登校を生じさせない)学校づくり

- ・未然防止に向けた開発的・予防的生徒指導の充実
- ・学級経営の充実(Q-Uアンケートやあったかアンケートの活用)
- ・「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の推進

## 市教委発行のハンドブック等の効果的な活用

「魅力ある学校づくり」の取組を支援するために、教育委員会が、「今、学校に求められる生徒指導の『3つの力』」や、「学級経営ハンドブック(小学校・中学校)」、「学びの羅針盤」を作成、配付した。



## 学級集団や児童生徒の実態の把握

「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U」や「あったかアンケート」を活用して、学級集団や児童生徒等の様子を見取り、人間関係づくりの活動や、状況によっては、早期に個に応じた支援を行う。

## 不登校支援ハンドブックの作成への取組

学校に若年教員の占める割合が高くなり、学級経営や不登校の子どもへの支援で苦慮している状況が多く見られている。そのような中、不登校の予防・初期対応の重要性、不登校の状態から自立を目指す支援など、幅広い内容を、専門家の意見も踏まえ、ハンドブックにまとめ、全ての教職員に配付する。(令和2年度発行予定)

## ○未然防止, 早期発見・早期対応の取組

- ・校内支援委員会の効果的な運用
- ・学校配置SCやSSW等を含めた「チーム学校」での取組
- ・不登校担当教員配置校への取組

重点的取組1

## 校内の不登校支援体制の充実

全ての学校に配置している不登校支援担当者をコーディネーターとして、校内の不登校支援体制を充実させるよう、年3回の研修会(ブリーフミーティングの普及)や中学校の校内支援委員会へ不登校対策アドバイザーや指導主事等が参加し、助言、支援を行う。

## 不登校担当教員配置校への取組

不登校担当教員(小学校4校, 中学校6校に配置)を対象とした年5回の研修会を実施。不登校対策アドバイザー, 指導主事等が配置校を訪問し, 中学校では校内支援委員会へ参加し, 助言・支援を行ったり, 小学校では管理職等と体制の構築に向けて協議を行ったりして, 学校における組織的な不登校支援を推進する。

## 不登校対策アドバイザーによる訪問支援

人権・こども支援課に配置している不登校対策アドバイザーが定期的に学校を訪問し, 管理職と学校の組織的な不登校対策について協議し, 指導・助言を行う。

## スクールソーシャルワーカーの派遣

17名のスクールソーシャルワーカーを中学校区を中心に派遣し、児童生徒を取り巻く背景の課題に対して、家庭や学校、福祉機関や医療機関等に働きかけて、子どもの環境の改善を図る。

また、4月派遣を拡充し, 切れ目のない支援ネットワークの構築を図る。

## ○不登校児童生徒の自立に向けた支援の充実

- ・教育支援センターの体制強化と機能の充実
- ・多様な学びの場の保障
- ・相談機能の強化(教育支援センター配置SCの活用)

重点的取組2

## 不登校児童生徒の自立に向けた教育支援センターの相談機能と支援体制の強化

センター長(新規), 心理の専門家であるスクールカウンセラー, 経験豊富な専任教育相談員を配置し、教育相談機能の充実を図り、保護者からの相談対応を充実させるとともに、受け入れた不登校児童生徒一人一人の的確な見立てを行い, 支援員等に指導・助言を行うことで、児童生徒の状態やニーズに合った、社会的自立を目指した支援を行う体制の強化を図る。また、学校や教育委員会の各所課と連携し, 高知市の不登校対策の中核となって推進する。

## 教育支援センターへスクールカウンセラーを常駐

学校に配置されているスクールカウンセラーとは別に, 教育支援センターに不登校児童生徒の社会的自立に向けた心理的支援や, その保護者等や支援スタッフへの指導・助言を行うために, 不登校児童生徒への造詣の深いスクールカウンセラーを配置し, 不登校に関する相談機能の充実を図るとともに, 新体制の強化を図った。

## 校内型適応指導教室研究実践モデル校の指定

モデル校に在籍する不登校生徒(別室対応や保健室対応の生徒を含む)の学習活動の場を保障し, その教育課程等を調査・研究を行い, 効果を検証する。

参考: 「不登校児童生徒への支援の在り方について(通知)」文科省 令和元年10月25日

## ◆ 高知市立小・中・義務教育・特別支援学校に配置されている不登校支援に関する専門家

### スクールカウンセラー (SC)

人数:28名  
資格:臨床心理士等

子どもの発言や反応, 行動や, 保護者からの聞き取りなどをもとに, 知的発達や情緒発達など, 心理学的視点からの心の状態の見立てを行う。  
また学校全体を支援するという視点からコミュニケーションの取り方やストレスマネジメントに関する心理教育などを行う。

### 学校カウンセラー

人数:16名  
資格:公認心理士等

子ども, 保護者, 教職員に対して, カウンセリングや見立てを行う。  
また専門性を生かしてコンサルテーション(専門家による助言, 援助を含めた検討)を行うこともある。

### スクールソーシャルワーカー (SSW)

人数:17名  
資格:社会福祉士  
精神福祉士等

子どもが置かれた環境(家庭, 学校, 地域や医療, 福祉等)への働きかけや関係機関とのネットワークの構築, 連携・調整, 校内におけるチーム体制の構築, 支援を, 福祉の専門家として行う。

学校の要請に応じて, 不登校支援委員会等へ参加している

## ◆ 高知市教育委員会に配置している不登校支援に関する専門家

### 不登校対策アドバイザー (人権・こども支援課)

人数:6名  
資格:元学校長, 元児童支援施設長

全ての小中義務教育学校を訪問し, 管理職や教職員からの聞き取り, 校内巡回を通し, 不登校や生徒指導に関して心配される児童生徒の見立てを行い, 学級経営や個への適切な対応についての指導・助言を行う。状況に応じ, 心の教育アドバイザーと情報共有等連携し支援につなげる。

### 心の教育アドバイザー (人権・こども支援課)

人数:1名  
資格:臨床心理士

発達障害等による集団への不適応や学校での問題行動, また自傷行為など, 生命にかかわる事案等に対し, 児童生徒, 学校, 保護者との面談, 見立てを通して, 医療へのつなぎを含め, 個に応じた助言, 支援などの即時対応を行う。

### スクールカウンセラー (教育研究所 教育支援センター)

人数:1名  
資格:臨床心理士

教育支援センターで, 児童生徒や保護者の不登校に関する教育相談を行うとともに, 支援スタッフへの指導・助言を行う。  
必要に応じて, 訪問相談を行う。

【目的】登校の安定しない児童生徒を対象とした早期発見・早期対応の取組を充実させ、新規の不登校を抑制する。

重点的取組Ⅰ 校内の不登校支援体制の充実と不登校担当教員配置校への取組

平成17年度から高知市で独自に校内で担当を決めて配置し、取り組んでいる。

不登校支援担当者（全校配置）

○不登校支援のコーディネーター的役割を果たし、学校での支援を推進する。

指導主事等（班長・センター長・不登校対策アドバイザー含む）

訪問支援

不登校担当教員（10校（小4校、中6校）配置）

教育支援センター

支援

本年度、県教委が、加配教員として、高知市の10校に、不登校支援のための教員を配置し、リーダー的役割の教員を学校長が指名している。

効果的な取組の研究及び高知市への発信

【取組の内容】

- ①全ての学校に配置している不登校支援担当者がコーディネーターとして、校内の不登校支援体制を充実させることができるよう、年3回の研修会（ブリーフミーティングの普及等）を開催するとともに、中学校（小学校においては配置校中心）の校内支援委員会へ不登校対策アドバイザーや指導主事等が参加し、新規の不登校を抑制に向けて、助言、支援を行う。
- ②不登校担当教員（小学校4校、中学校6校に配置）を対象に年5回の連絡会を実施するとともに、不登校対策アドバイザー、指導主事等が配置校を訪問し、新規の不登校の抑制に向けてはもとより、不登校状態の児童生徒に対して、支援ゼロの児童生徒を生まないように、チーム学校として組織的な支援体制の構築に向けた助言、支援を行う。

【達成すべきレベル】

- ①新規の不登校児童生徒数の出現率が12月末段階で、令和元年度の値（小学校等：0.55%，中学校等：1.77%）を下回っている。
- ②不登校担当教員配置校において、90日以上欠席不登校児童生徒のうち、支援ゼロ（学校内外で、相談・支援を受けていない状態）の児童生徒をなくする。

## 重点的取組 I における現時点の取組状況（成果）と見えてきた課題、今後の取組計画（Check & Action）

### 【校内の不登校支援体制の充実（不登校支援担当者の取組）：全校への取組】 〈成果・課題〉

【高知市立小学校】

不登校支援委員会 参加回数 23回

【高知市立中学校】

不登校支援委員会 参加回数 92回

- ・ 4月に予定していた1回目の会は、コロナ禍により実施できなかったが、全校に資料を配付して不登校支援担当者の役割の周知を図った。
- ・ 中学校では、定期的に校内支援委員会を開催し、指導主事等（班長・センター長・不登校対策アドバイザー含む）が7月末現在で合計92回参加し、指導・助言を行うなど支援会の仕組みが整備されている。
- ・ 小学校では、校内支援委員会が定期的に開催できる体制整備が課題であるので、課題解決に向け、不登校担当教員配置校4校に重点的に訪問支援を行った。
- ・ 8月の第2回研修会で「初期対応が変われば不登校支援が変わる」と題して、教育支援センター長が早期対応の具体について講話・演習を行うとともに、不登校担当教員10名による、1学期の初期対応についての取組の実践発表を、それぞれがプレゼンし、取組を上げた。

#### 〈今後の計画〉

- ・ 小中学校の不登校支援委員会等へ、不登校対策アドバイザーや指導主事等が参加し、指導・支援を行うとともに、配置校の取組を拡げていく。

### 【不登校担当教員連絡会の取組：配置校10校への取組】 〈成果・課題〉

【高知市立小学校】

不登校担当教員配置校への訪問支援回数 21回

【高知市立中学校】

不登校担当教員配置校の不登校支援委員会への参加回数 48回

- ・ 「月3日休んだ子ども」に着目し、早期発見の仕組みができた。
- ・ 7月末現在、市単独で不登校担当教員連絡会を2回実施し、併せて県のステップアップ研修に1回参加した。
- ・ S中学校区の3校（中1校、小2校）の不登校担当教員を教育研究所研究員に委嘱し小中連携による不登校対策の研究に取り組んでいる。
- ・ 小学校4校には、指導主事等（班長・センター長・不登校対策アドバイザー含む）が、合計21回訪問し、「全体の支援を包括的に捉えて検討していく組織的な会の実施」について、管理職と不登校担当教員に提案、助言を行い、校内支援委員会の体制整備について協議し、現時点で取り組み始めており、今後はPDCAサイクルを回しながら定着を図っていく。

#### 〈今後の計画〉

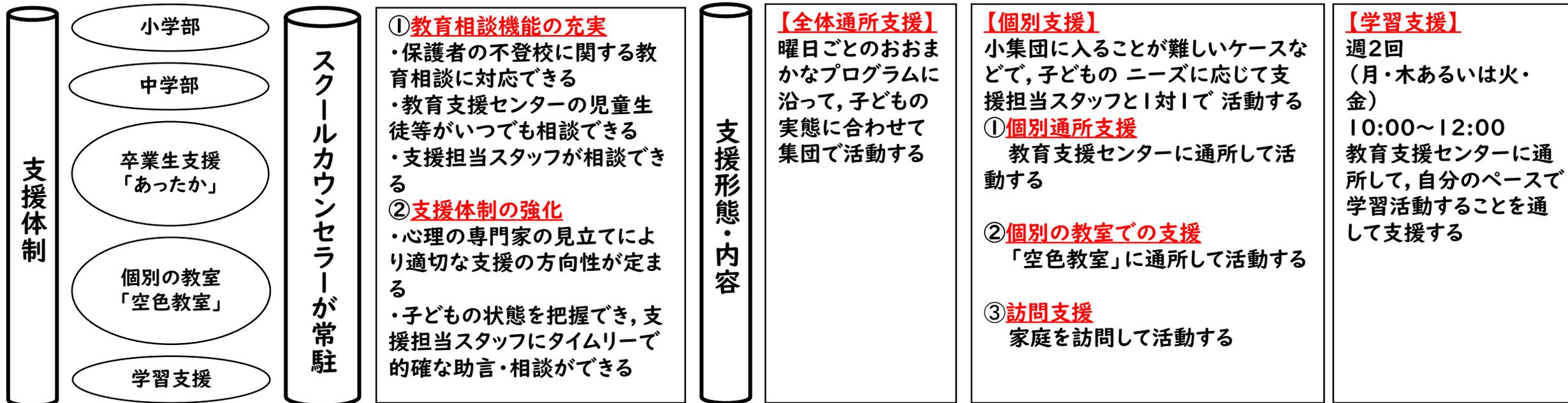
- ・ 8月以降、市単独研修を3回実施予定で、県のステップアップ研修にも参加し、取組の充実を図る。
- ・ 不登校状態の児童生徒への支援について、「支援ゼロ」をなくする取組について、研究し、効果的な支援の充実を図る。

小学校においては、個別の支援会（不登校状態の児童を対象）を行い、支援することが中心となり、早期発見・早期対応、未然防止の取組を検討することができていなかった。

【目的】不登校状態の児童生徒を対象として、自立に向けた支援を充実させ、進路の保障を行う。

重点的取組 (Do)

## 重点的な取組2 教育支援センター事業



### 【取組の内容】

○不登校支援の実践家であるセンター長、心理の専門家であるスクールカウンセラー、経験豊富な専任教育相談員を配置し、教育相談機能の充実を図り、保護者からの不登校に関する相談対応を充実させるとともに、受け入れた不登校児童生徒一人ひとりの的確な見立てを行い、支援スタッフに指導・助言を行うことで、児童生徒の状態やニーズに合った社会的自立を目指した支援を行う体制の強化を図る。

### 【達成すべきレベル】

○教育支援センターで支援している中3・義9年生全員の進路を保障する。

# 重点的取組2における現時点の取組状況（成果）と見えてきた課題、今後の取組計画（Check&Action）

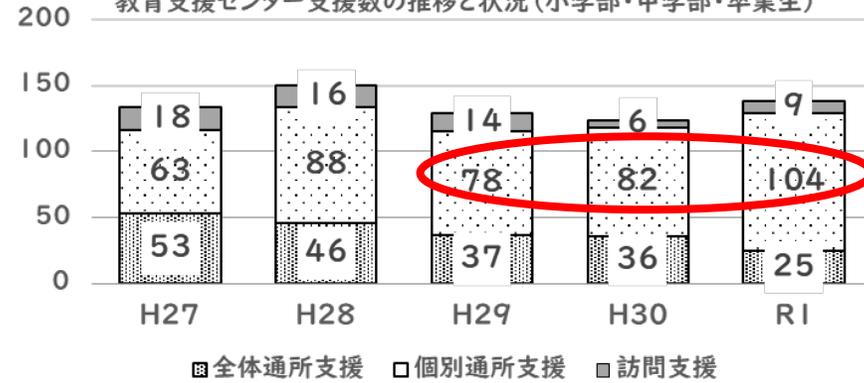
## 令和2年7月22日段階での支援状況（人数）

	全体	個別 (空色)	学習	訪問	相談のみ	計
小学部	8	14		0	9	31
中学部	18	51 (5)	6	11	25	111
卒業生 (あったか)		2				2
計	26	67	6	11	34	144

\* (空色)は「個別の教室」で支援している児童生徒の数

\* (あったか)は卒業生支援の呼称

教育支援センター支援数の推移と状況(小学部・中学部・卒業生)



## 〈成果と課題〉

- ・教育支援センターで支援している人数は**144名**（うち新規受理者 33名）である。（昨年同月比 人数 +24名, 新規受理者 -8名）
- ・7月に小学部, 中学部において, コロナ禍においても「体験学習」を実施し, 多くの参加があった。（小学部 5名, 中学部 12名）
- ・中学3年生に対しては, 進路学習についてのカリキュラムを作成し, 計画的に学習を進めている。
- ・個別で対応する必要のあるケースが年々増えてきている。個別支援を行うためには, 支援を行う担当と場所を確保する必要があり, すでに7月末でかなりの数になっており部屋の調整にも苦勞している。
- ・不登校の背景に発達障害がある事例が多くなり,対人関係に不安を抱えているので, 集団に入ることができるようになるまでに丁寧に二者関係を育む個別の支援が必要かつ重要な支援となっている。
- ・7月末段階で, 卒業生支援(あったか)で支援を行っている青年は2名である。教育支援センターにおいて, 令和元年度に中学校を卒業した生徒の中で進路未定者は1名であるが, 過去5年間では, 通算11名となっている。中学校卒業後の進路未定者のリサーチと卒業生支援へのつながりが十分できていない。

## 〈今後の計画〉

- ・教育支援センターに通所している中学3年生及び保護者対象に**高校説明会**を8月末に実施予定である。（現時点で生徒, 保護者合わせて40名の申し込みがある。）
- ・新学習指導要領で求められている子どもたちに育成すべき資質・能力を育むために, 主体的・対話的で深い学びを実現することのできる活動を計画する。（「**子どもの言葉で問いを創る授業**」の研究）
- ・**保護者講演会（2学期予定）**を, 教育研究所の出発生であり株式会社の代表を講師に計画している。
- ・ひきこもりの青年への支援を行っている関係機関との連携を図り, 卒業生支援の充実させていく。





## 子どもの状態のチェックと学校でできる対応

### 《こんな様子はありませんか?》

- |                                   |  |                                   |
|-----------------------------------|--|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> イライラしている | <input type="checkbox"/> 不安そうにしている       | <input type="checkbox"/> 落ち込んでみえる |
| <input type="checkbox"/> 集中できていない | <input type="checkbox"/> 食事量が増えている/減っている | <input type="checkbox"/> 落ち着きがない  |
| <input type="checkbox"/> 眠そうにしている | <input type="checkbox"/> 疲れている           |                                   |

### 《学校でできる対応》

#### 学級活動で

- ☆再会を喜ぶ
- ☆笑顔で声をかける
- ☆ゆっくりと優しい口調で話す
- ☆睡眠の指導  
(夜眠るようにして昼寝を減らすなど)
- ☆偏った情報を見ない指導と信頼できる情報を伝える
- ☆ストレッチや深呼吸

#### 授業で

- ☆落ち着きのない子や私語が目立つ子には穏やかに声をかけ、いつでも気持ちを聴くことができると伝える
- ☆机に突っ伏していたりしている子には、疲れがたまっていないか声掛けをする

#### 休み時間に

- ☆不安そうにしていたら気持ちに寄り添い、不安は当然のことだと伝える
- ☆孤立している子どもには、困りことはないか声をかけて、ひとりの時間を尊重する

#### 給食の時間

- ☆食欲がない(あり過ぎる)ときは、状況に応じて気にしていることを伝える
- ☆ゆっくり味わって食べるようすすめる

### 気になる様子があれば個別に対応を

- ☆気持ちを表現することを助けてあげる
- ☆ネガティブな発言は受け止めて肯定する  
→「よく話してくれた」「こんな気分なんだね」など



☆☆

### まず、先生方ご自身のメンタルケアを

大人も疲れています。ストレスも溜まっています。失った時間を取り戻そうと焦ることもあるでしょう。けれども、一度立ち止まり子どもたちと一緒に日常と安心・安全を回復しましょう。大人が率先してストレスをケアする姿を見せてあげることができれば、子どもたちはその様子を見てストレスを解消する方法を学ぶでしょう。

#### ～遠慮なくご相談を～

高知市教育研究所教育支援センターにスクールカウンセラーが常駐しています。  
いつでもお気軽にご相談ください。(TEL 088-832-4498)



## 学校再開後 1週間の子どもへの対応

### ～担任と子どもをつなぐ黒板の活用～

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために制限されていた社会的活動が、少しずつ解除され、学校も再開しました。長期間にわたるステイホームにより、生活リズムの乱れや意欲の消失、あるいは課題ができていないことの困り感など、登校への不安を抱えている子どもも少なからずいます。登校が再開されたこの1週間は、今までの生活と大きく変わり、心身ともに不安定になる子どもが増えてくることが予想されます。子どもとつながるための、小さな取組として「黒板メッセージ」を紹介します。



### 先生は自分たちのことをわかっているというメッセージを 前向きな言葉で伝える「黒板メッセージ」

朝の会や帰りの会では、必ず「先生の話」が設定されています。それは連絡事項やその日の出来事について、教員の考えや思いを話す時間です。でも、時間が限られており、つい連絡事項で終わってしまうことも少なくありません。

そこでお勧めなのが、子どもたちが帰った後の放課後や朝早くに、学級の黒板に教員の思いや願いをしたためる「黒板メッセージ」です。

#### 黒板メッセージの進め方

##### ① 子どもに伝えたいことを整理する

まず、一日を振り返って、いいなあと思った子どもの言動や感動したこと思い出します。今なら新型コロナウイルス感染症についての心のケアの仕方を伝えるのもタイムリーですね。

★ ここをしっかりと

- ・ 今日この日の黒板メッセージでなければ、時期を逃してしまうものを優先する
- ・ 「今しか書けないこと」を選ぶのがコツ。

##### ② 放課後か早朝に黒板にメッセージを書く

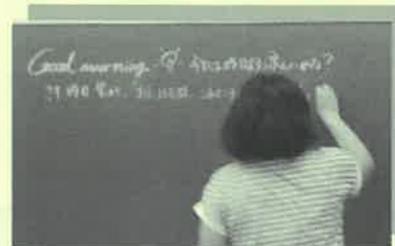
文章を書くのが苦手な人や慣れない間は、書く材料をメモしたり下書きをしたりしておくといでしょう。絵の得意な人は絵も添えると子どもたちが注目します。

##### ③ メッセージを読み返す

「子どもたちが朝学校に来て、このメッセージを読んだらどう思うかな」と想像しながら書いたメッセージを読み返します。

★ ここをしっかりと

- ・ 指示や注意などではなく、愛情を感じる文章表現が含まれているかどうかポイント



黒板メッセージを書いている様子

※ 裏面には5月22日に今年度市内10校に配置されている不登校担当教員の連絡会で行った、『不登校の初期対応』のブリーフミーティングの記録を載せています。先生方から出されたアイデアは宝の山です。ぜひ参考になさってください。

## 2020年5月22日 不登校担当教員連絡会

### ブリーフミーティング

ルール  
(解決志向・守秘義務)

終了時刻 16:25

事例の報告(5分)

休み初めの対応が  
わからない

親からは病気という欠席連絡  
宿題ができていない  
担任が一人で対応して情報共有ができていない  
対応するタイミングがわからない  
欠席の理由を言わない  
友達の家遊びに行っている  
生活リズムがくずれている  
お家の人と離れられない  
友だちがこわい  
毎朝校内で大泣きする  
迎えに行ったら家族じゅう寝ている  
コロナに感染するのがこわい  
来たら元気なんだけど…  
家庭訪問しても会えない

### 質問・リソース探し(10分)

宿題ができてなくても大丈夫という対応をするこ  
とにしている  
朝、学年主任が欠席者をチェック→欠席黒板に記入  
登校したらOや見え消し  
あいさつ運動で子どもの表情を観察  
欠席3日で家庭訪問を徹底

→ 親子で来てもらうことにしている

副担任が欠席者の家に電話連絡

電話対応はやさしい声で

欠席連絡の受け方が統一されている

友だちからの情報を有効に

事務職員さんに子どもの様子を情報提供しておく

保護者に寄り添う、励ます

校内巡回して教室に入れず泣いている子を発見

### 今日のゴール

### 新たな不登校をゼロ



不登校担当教員によるブリーフミーティングの様子

### 解決のための対応策

- ・ **正門、別室までの登校でOK(自己決定)**
- ・ 言葉が発するのが苦手な子には選択肢を示し、  
どうしたいかを子どもに指さして決めてもらう。
- ・ 居場所や時間を自我関与・自己決定させる
- ・ 構造的グループエンカウンターで仲間づくり
- ・ 遅刻・欠席の連絡を早く、確実に職員で共有
- ・ **電話対応を統一し、電話のところにラミネートして**

### 置いておく

「どんな具合ですか?」「熱は?」「病院には行かれ  
ましたか?」等→「実は学校に行きたくない…」

- ・ **電話対応や家庭訪問の仕方をロールプレイで研修**
- ・ 二者面談(担任や学年団・養護教諭・SC)
- ・ 家庭訪問でゲームを一緒にしてつながる
- ・ 電話や家庭訪問を2名体制で
- ・ 宿題で決して責めず、「宿題していいなくてもいい  
よ。」と安心感をもてるように
- ・ 「給食だけ食べにおいで」
- ・ コロナ…「ステイホーム頑張ったね」
- ・ 3日以内に顔を見るというルールを設定
- ・ 職朝なしで担任が教室で笑顔で子どもを迎える
- ・ 黒板メッセージ

### 決定する(当事者)

### 次回を決める

### 撮影

## キープソーシャルディスタンスの中でもできるエンカウンター

新しい生活様式としてソーシャルディスタンスが推奨される中、お互いを知るためにエンカウンターをやりたけれど、グループで話したり、活動したりする場面が多いから、やってはダメかなあと考えていませんか。距離をとりながらもお互いのことを知ることでできるエンカウンターを紹介します。

### クラスの人をより深く知り、つながるために

### 「スリーヒントクイズ」はいかが？

ねらい	自分の好きなこと、経験したことや考えていることを知り合うことで、お互いを理解するとともに、安心して話せる雰囲気やあたたかい人間関係を築いていく。
時間・形態	【時間】初回 15分 その後1日5分ずつ 【形態】クラス全体で
準備物	・スリーヒントクイズシートとワークシート(校務支援システムグループウェアの掲示板にあります) ・「約束事」を記入した紙(掲示用)
インストラクション ・何をするのか ・何のため ・約束	・各自記入した「スリーヒントクイズシート」をもとに友だちをあてるクイズをする。 ・クラスの仲間のことをよく知って、仲良くなる。 仲良くなるための「約束事」 ・人が話しているときは口をはさまず聞く。 ・からかったりひやかしたりしないで違いを楽しむ。
どんなことが起こるのか	・普段知りえないことを知ることができ、もっと仲良くなれる。 ・相手と自分の違いを見つけて仲良くなれる。
エクササイズ 準備	・「スリーヒントクイズシート」を全員に配り、各自、自分のことについて記入後、回収する。 「後でクイズにするので、人に知られてもいいと思う内容を書いてください。」と伝えておきましょう。
活動	教員も自分や他クラスの教員のことを例として紹介すると、みんなの緊張がほぐれます。 (1) 1人のシートをランダムに選び、記載されている内容を1から順に読み上げる。 (2) この人のことかなと思ったら、「ワークシート」に名前と何番目のヒントでそう思ったか記入してもらう。(書いた人には、何番目のヒントでそう思ったか指で示してもらう。) (3) 予想する人の名前を「せーの」でコールした後、答え合わせをする。 答えられる人が少ない時こそ、「新たな面が知れてうれしいね。」等、声掛けを! (4) ふりかえりと手紙に記入する。
シェアリング	・全体でシェアリングを行う。 (子どもが紙に書いたものを教員が読むという方法もあります。)

※初回以降は、朝の会などで毎日1~2人ずつスリーヒントクイズを行っていく。

# スリーヒントクイズシート

名前 ( )

1

.....  
.....  
.....

2

.....  
.....  
.....

3

.....  
.....  
.....

スリーヒントクイズ

# ワークシート

名前 ( )

① この人かな?と思った人の名前を書いてみましょう。

この人のごとじやないかな?

さん

番目のヒントでそう思ったよ

② スリーヒントクイズのふりがえり(感じたことや思ったことなど)

.....  
.....  
.....

③ ( )さんへのお手紙  
.....切り取り.....



( )さんへ

.....  
.....  
.....

( )より

クラスの状態に合わせて自由に改良してお使いください。(データは校務支援システムグループウェアの掲示板にあります。)

## 子どもと保護者 心がつながる学期末懇談 ～学期末懇談 3つの極意～

今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、年度当初の参観日や家庭訪問がなく、「学期末懇談で保護者の方と初めてお会いする」という先生もいるのではないのでしょうか。学期末懇談は、保護者の方へ「〇〇さんのことを一緒に考えていきたい。共にやっていきましょう」という思いを直接お伝えできる絶好の機会です。キーワードは「成長」。「先生と話せてよかった」という時間にするためのコツを紹介します。

### 1 頑張っていたところ、いいところは具体的に伝える

よくやりがちな例



〇〇さん、よく頑張ってますよ。



うちの子、何を頑張っているのかしら？



こうすれば…

「給食係で、おかずを上手に盛り付け、余ることなく配膳できるんです。」

「体育のときに、二重跳びができるようになるまで何回も練習していましたよ。」

「家庭科で、ボタン付けができなくて困っている友だちに優しく声をかけて一緒に作ってくれました。」

### 2 努力してほしい点は、子どもの気持ちを汲み取る

よくやりがちな例



授業中椅子に座ってられないんです。みんな困ってます。何度も言ってます。ちゃんと言い聞かせてください。



落ち着きがないことはずっと言われている。私だってずっと言い聞かせているのよ。一体どうしたらいいの！



こうすれば…

困ったことの中でもよい方に变化したことを伝える

「椅子に30分座っていただけるようになりました。」

「〇〇の教科の授業で、とても集中して学習していました。」

本人が言えてない気持ちがあるかもしれないから聞いてほしいということを伝える

「席を離れているときは、何か困っていることがあるかもしれないです。私には言いにくいこともあるかもしれないので、お家でも気持ちを聞いてあげてもらえますか？」



「成長したね」  
「努力したね」

中学生にはその場で聞くこともできます。

### 3 目標は、子どもの口から(自我関与・自己決定)

#### 二者面談(小学校バージョン)

「〇〇さんの気持ちも聞きながら、2学期からは◇◇にチャレンジできるように支援したいと思っています。まず□□をやってみるとかどうでしょう？また様子を聞かせてください。」

#### 三者面談(中学校バージョン)

生徒に 「〇〇さんは、2学期からはどんなことにチャレンジしたいと思っていますか。」

「そのことが実現するように先生はサポートするよ。まず□□をやってみる？」

保護者に「またお家での様子を聞かせてください。」

※ 懇談までに、葉書サイズの内紙に「2学期頑張りたい3つのこと」を書いてもらっておきましょう。自我関与させておいてから子どもの思いとして伝えると主体の力を育てるサポートになり、保護者ともよりつながることができると思います。

# 新型コロナウイルス感染予防の対策を考えた面談の机の配置例

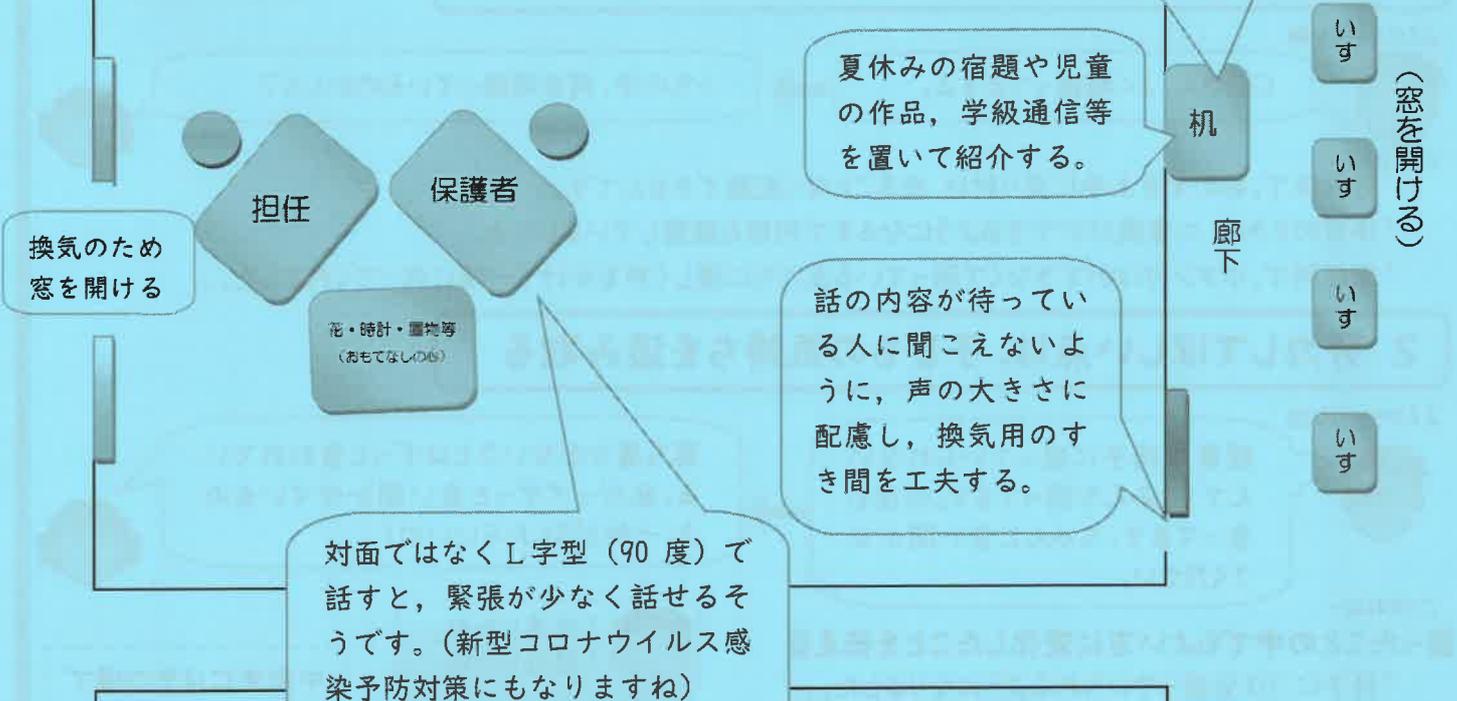


保護者の方は、子どものために時間をつくってきてくれています。感謝と共同の気持ちが伝わる工夫を！

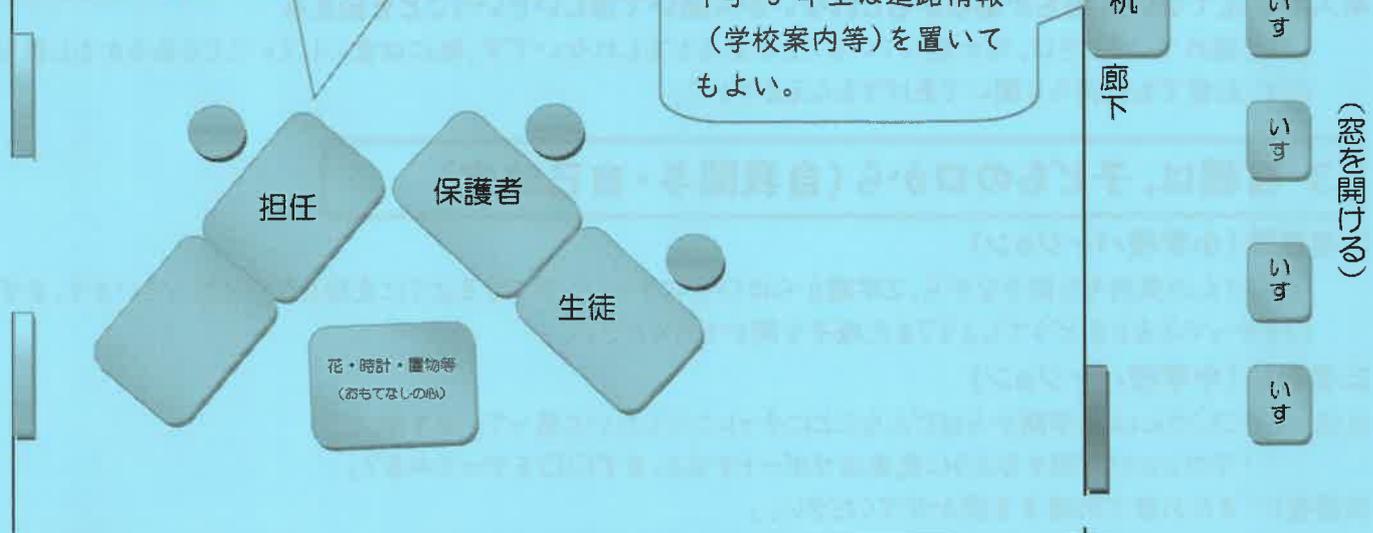
リーフレットに掲載していること以外にも学校、学年の先生方がたくさんの工夫、技をおもちのことと思います。ぜひ、お近くの先生と話題にしてください。

面談進行表の近くに「お忙しい中お越しいただきありがとうございます」とメッセージを書く。

## 二者面談の場合



## 三者面談の場合



懇談は時間厳守！でも話がが続くときは…  
 「まだお話をお聞きしたいのですが、この後次の方がいます。  
 ○時からならお聞きできます(お電話できます)がいかがですか？」  
 と、いったん区切り、次の方との出会いも大切にしましょう。

# 高知市立学校のICT環境整備について

～ G I G A スクール構想の実現 ～



高知市教育委員会  
教育環境支援課

# 「GIGAスクール構想の実現」等 ICT環境整備の状況

## 端末

	合計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
令和2年度（補助金・令和元年度3月補正）	7,360					2,709	2,676	1,975		
令和3年度（補助金）	3,884								1,968	1,916
令和4年度（補助金）	3,027			465	2,562					
令和5年度（市単独）	7,136	2,522	2,531	2,083						
<b>合計</b>	<b>21,407</b>									

### 整備の前倒し

	合計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
令和2年度（補助金・令和元年度3月補正）	7,360					2,709	2,676	1,975		
令和2年度（補助金・令和2年度5月補正）	6,911			465	2,562				1,968	1,916
令和2年度（臨時交付金・令和2年度7月補正）	7,136	2,522	2,531	2,083						
<b>合計</b>	<b>21,407</b>									

**+ 教員用（学級数）969台【7月臨時議会】 = 22,376台**

## 電子黒板

全普通教室に整備〔小・中・義・特（小・中）〕

令和2年度中に、  
ICT機器の整備が  
**全て完了**

## デジタル教科書

国・算・数・社・理・英・書（小・中・義）

# 高知市立学校のICT環境整備等一覧

Topic 1 ICT機器 令和2年度整備完了

Topic 2 「高知市立学校ICT活用推進協議会」の設置

## ◆ ICT機器等の整備

教育環境支援課

整備内容	令和元年度までの整備数等	令和2年度整備数等	R2年度6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R3年度	R4年度	R5年度		
ネットワーク整備 (10Gbps) 【小・中・義・特・高】	100Mbps～1 Gbps 60校 有線LAN基本	10Gbps 60校 無線LAN100%	現地調査	モデル校整備工事 (神田小・潮江中)	整備工事								運用				
タブレット収納庫 【小・中・義・特(小・中)】	-	59校 約770台						設置									
タブレット端末 【小・中・義・特(小・中)】	コンピュータ室 PC2,843台 (国水準による整備率約40%) 2,843台/7,136台≒40% 国水準 = 3クラスに1クラス分	令和元年度 当初計画(令和2年度～令和5年度)															
		小5・小6・中1 7,360台 国補助												国補助 中2・中3 3,884台	国補助 小3・小4 3,027台	市単 小1・小2 7,136台	
		指名競争入札	8月臨時議会承認後本契約 補助金・令和元年度3月補正 補助金・令和2年度5月補正	端末配置										運用			
		14,271台	令和2年度に前倒し														
		8,105台	指名競争入札	9月議会承認後本契約 臨時交付金・令和2年度7月補正	端末配置								運用				
		児童生徒一人1台 端末整備完了 →児童生徒用7,136台+教員用969台															
電子黒板 【小・中・義・特(小・中)】	59校 350台	59校 418台		小学校・義務教育学校 設置			運用										
														中学校・特別支援学校 設置	運用		
デジタル教科書(指導者用) 【小・中・義】	-	58校 総ライセンス数980	整備済	国・算・数・社・理・英・書													

## ◆ ICTの活用推進について

高知市立学校ICT活用推進協議会 産学官連携でICT機器等の活用による、家庭学習も含めた新たな学びのスタイルを推進	協議会①	協議会②	協議会③	協議会④	協議会⑤
--	------	------	------	------	------

(関連事業)

土佐山・鏡地域 ブロードバンド整備	高度情報通信環境整備促進事業	事業実施候補者選定	民間事業者による整備事業	サービス提供開始 (予定)
----------------------	----------------	-----------	--------------	------------------

# 高知市立学校におけるICTの活用について

～ G I G A スクール構想の実現 ～



高知市教育委員会  
教育環境支援課

# 高知市立学校におけるICT機器整備

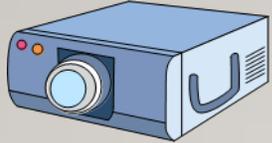
ICT=Information and Communication Technology



デジタルカメラ



PC (コンピュータ室)



プロジェクタ



電子黒板



デジタル教科書



児童生徒用端末



# プログラミング教育での活用

# ICTをあらゆる場面で！

# 教科での活用



【表現】

発表・紹介



【体験】

体験したことを使って



【協働】

動きを考え  
みんなで考え



【知識】

プログラミングソフトを  
使って再表現して



【協働】

共有・考察  
みんなで考え



【実験】

自らの眼で



【思考・表現】

まとめ・考察して



小・算数



小・体育

# 遠隔(異文化理解)での活用



【出会い】

異文化との新たな出会い



【ふれあい】

自分達のことを伝え



【交流】

会話をし、伝え



【相互理解】

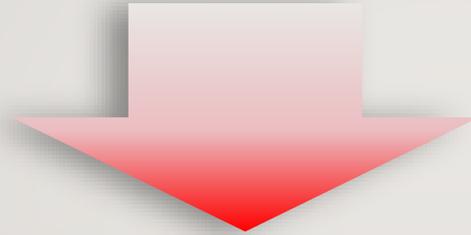
異文化を理解

# 「G I G A スクール構想の実現」による新たな学びのスタイル

G I G A = Global and Innovation Gateway for All

児童生徒 1 人 1 台端末

高速大容量の通信ネットワーク整備



多様な子供たち一人一人に個別最適化され、  
資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境の実現



これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、  
教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

# 「1人1台端末・高速通信環境」がもたらす学びの変容イメージ

## GIGAスクール構想

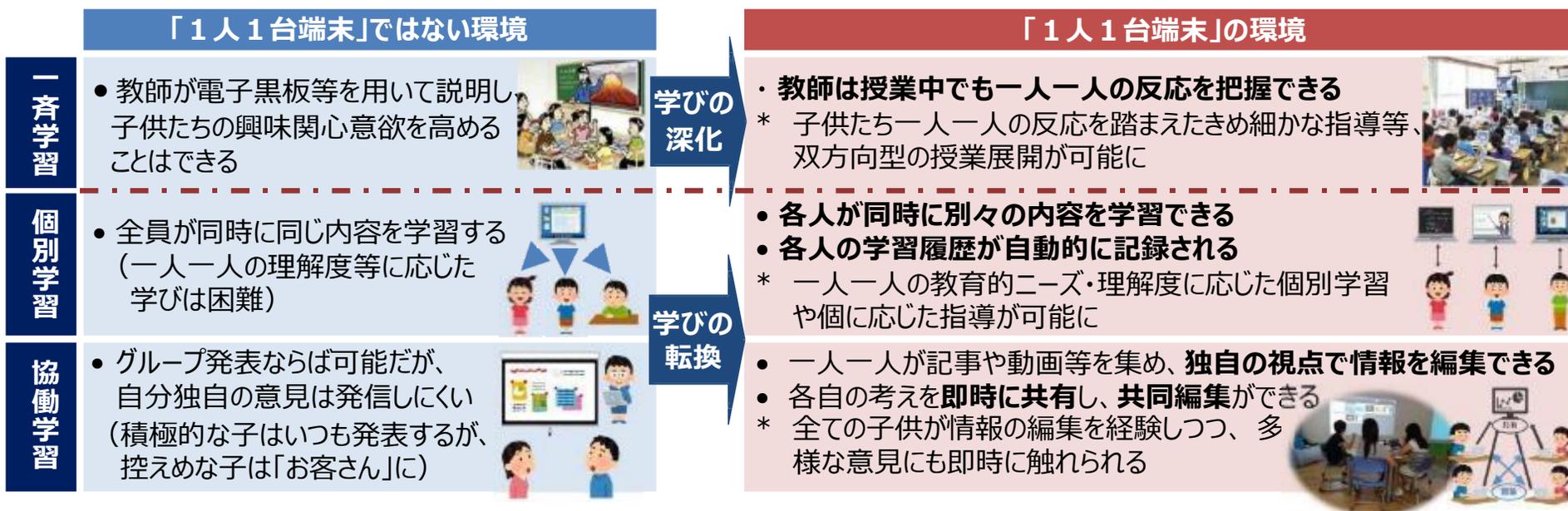
- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、**多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する**
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、**教師・児童生徒の力を最大限に引き出す**

これまでの教育実践の蓄積

× ICT

=

**学習活動の一層充実**  
**主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善**

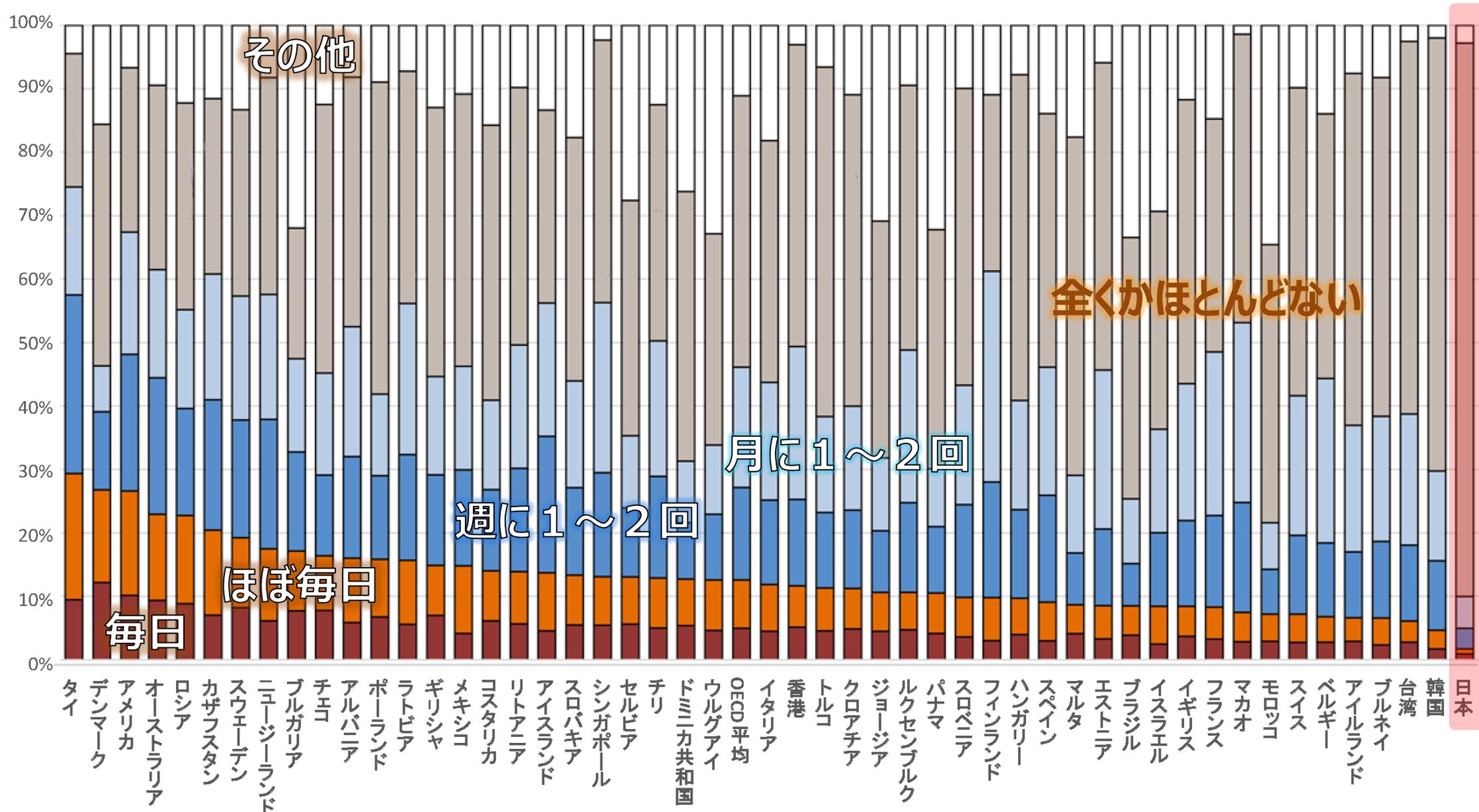


### 「1人1台端末」の活用によって充実する学習の例

- ☑ **調べ学習** 課題や目的に応じて、インターネット等を用い、記事や動画等の様々な情報を主体的に収集・整理・分析
- ☑ **表現・制作** 推敲しながらの長文の作成や、写真・音声・動画等を用いた多様な資料・作品の制作
- ☑ **遠隔教育** 大学・海外・専門家との連携、過疎地・離島の子供たちが多様な考えに触れる機会、入院中の子供と教室をつないだ学び
- ☑ **情報モラル教育** 実際に真贋様々な情報を活用する各場面（収集・発信など）における学習

# OECD/PISA 2018年 ICT活用調査

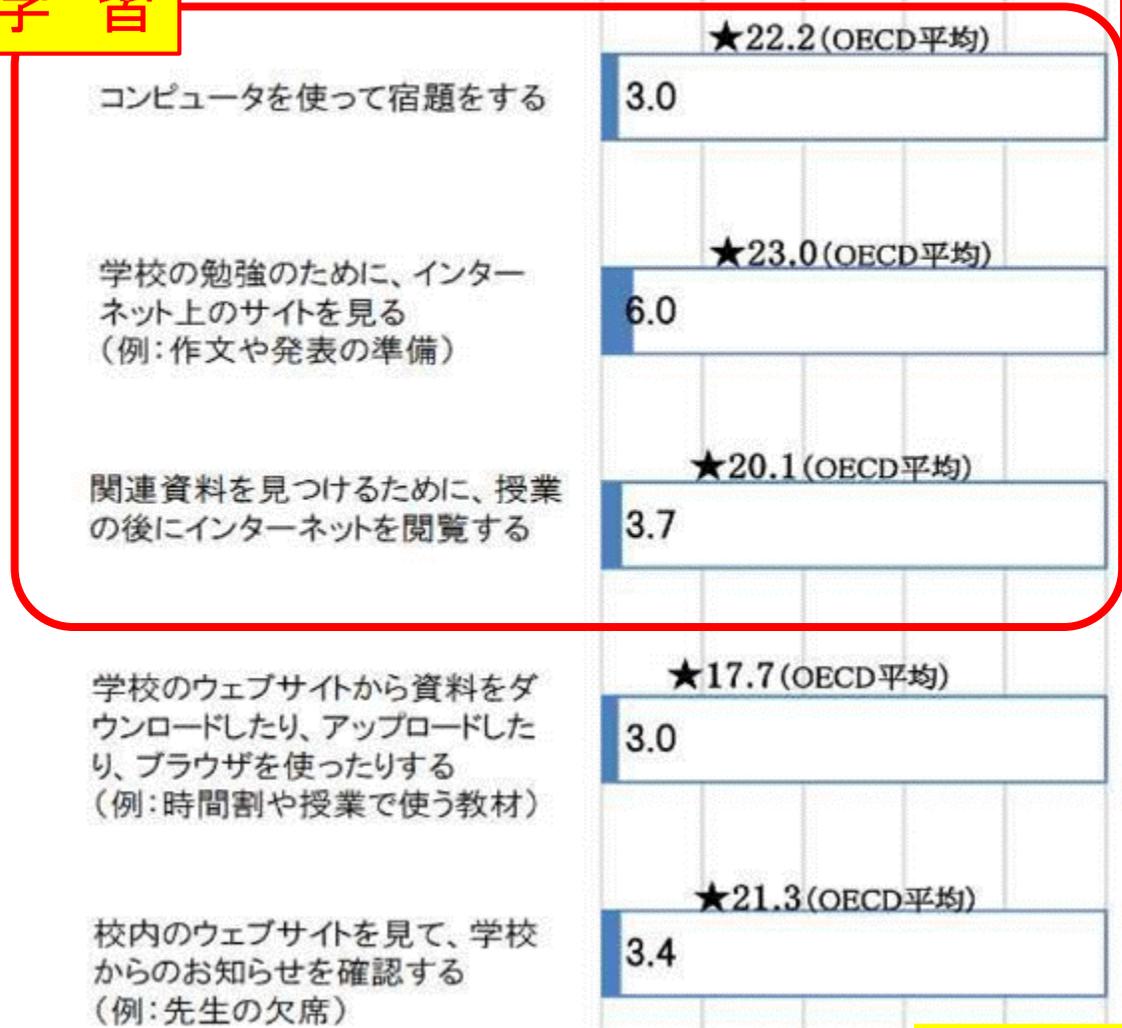
学校での使用頻度：ほかの生徒と共同作業をするために、コンピュータを使う



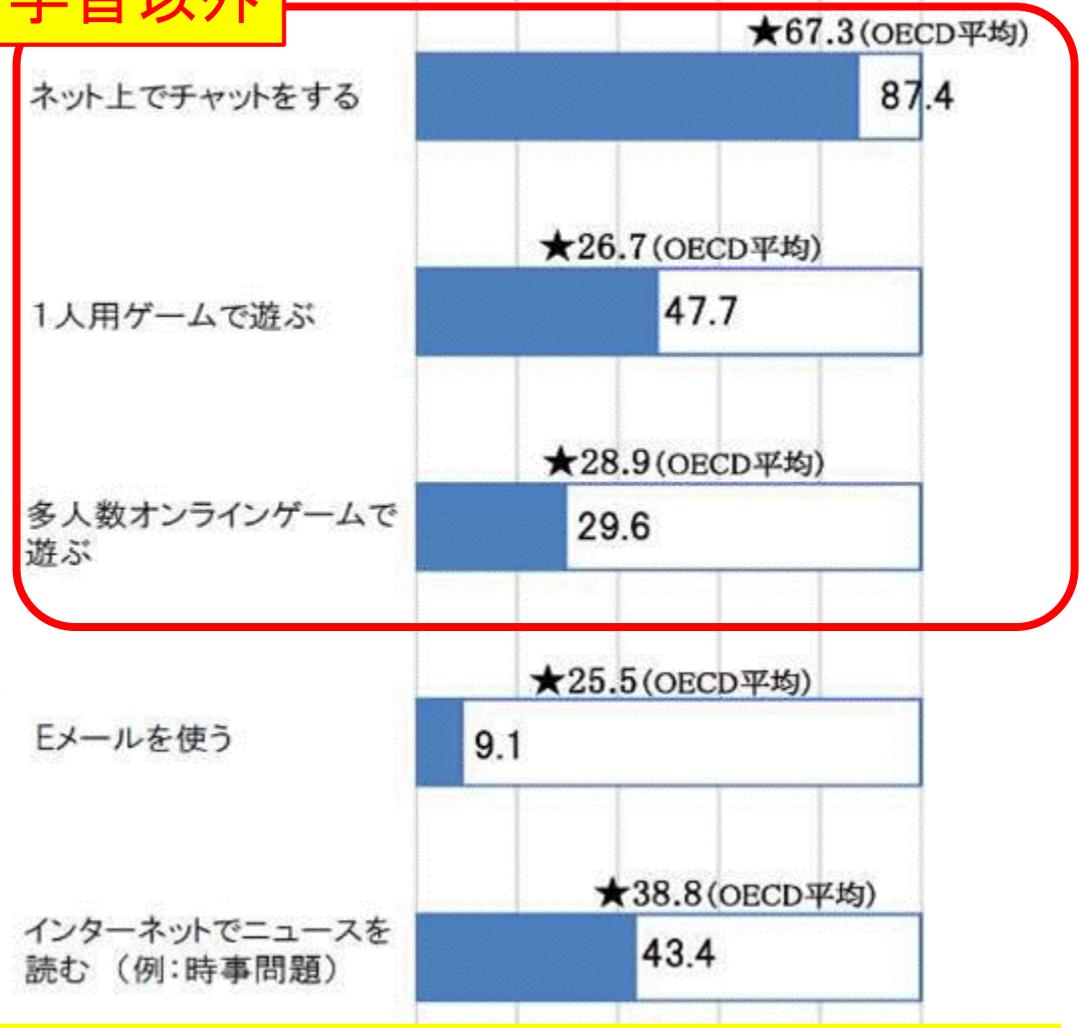
# 日本の子供達は、学習にICTを活用していない

● 学校外での平日のデジタル機器の利用状況 (青色帯は日本の、★はOECD平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計)

## 学習



## 学習以外



出典 OECD生徒の学習到達度調査 (PISA2018) 「ICT活用調査」

# 新学習指導要領の情報教育・ICT活用教育関係ポイント

小学校：2020年度全面実施、中学校：2021年度全面実施、  
高等学校：2022年度から年次進行で実施

## 小・中・高等学校共通のポイント（総則）

- **情報活用能力**を、言語能力と同様に「**学習の基盤となる資質・能力**」と位置付け
- **学校のICT環境整備**と**ICTを活用した学習活動の充実**を明記

## 小・中・高等学校共通のポイント（総則及び教科等）

- **小学校プログラミング教育の必修化**を含め、小・中・高等学校を通じてプログラミング教育を**充実**
  - 小学校：文字入力など基本的な操作を習得、新たにプログラミング的思考を育成
  - 中学校：技術・家庭科（技術分野）においてプログラミングに関する内容を充実
  - 高等学校：情報科において共通必修科目「情報Ⅰ」を新設し、全ての生徒がプログラミングのほか、ネットワーク（情報セキュリティを含む）やデータベースの基礎等について学習

**目的**

高知市立学校の教育活動において、I C T 機器等の活用による、家庭学習も含めた **新たな学びのスタイルを推進**する



**産学官連携** 高知市立学校 I C T 活用推進協議会

民間企業

- ◆ Google
- ◆ Microsoft
- ◆ Panasonic ◆ ELMO
- ◆ 東京書籍 etc...

学識経験者

- ◆ 佐藤幸江 (城西大学 他)
- ◆ 中川一史 (放送大学)
- ◆ 高知高専

教育委員会

- ◆ 教育環境支援課
- ◆ 学校教育課
- ◆ 教育研究所

○ 情報化による授業改善の事例提供

- ・デジタル教科書活用事例
- ・プログラミング教育事例
- ・特別支援教育における活用事例

○ 学校の I C T 環境整備に関する協議

- ・授業改善を効果的に支援する I C T 環境について

○ I C T 活用指導力の育成に関する協議

- ・指導力向上のための研修



電子黒板

デジタル教科書

児童生徒用端末

I C T 機器

G I G A スクール構想の実現



➤ 学習指導要領に沿った教育活動の推進

- ・情報活用能力の「学習の基盤となる資質・能力」に位置付け
- ・小・中・高等学校を通じてプログラミング教育

➤ ICTを活用した効果的な教育活動の実践

- ・児童生徒の興味・関心を高めるためのICT活用
- ・児童生徒一人一人に課題を明確につかませるためのICT活用
- ・わかりやすく説明したり，児童生徒の思考や理解を深めたりするためのICT活用
- ・学習内容をまとめる際に児童生徒の知識の定着を図るためのICT活用



➤ ICTの活用による特別なニーズに応じた教育活動や支援の実践

- ・特別支援教育における効果的な I C T 活用
- ・不登校及び特別に支援を必要とする児童生徒への効果的な I C T 活用